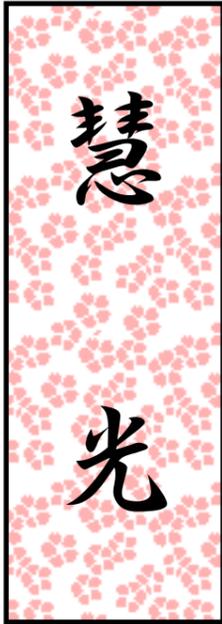




▲ ツツジが終り早ひと月、見頃のサツキ (6月6日撮影・境内にて)



金光寺寺報
第216号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
☎ 0982
83-2338

今月法語カレンダーのことば

無礙の光明 信心の人をつねにてらしたもう

今月のことばは、親鸞聖人の『尊号真像銘文』のなか、七高僧のお一人である源信和尚の銘文よりいただいています。源信和尚は、主著である『往生要集』のなかで、

「またかの一々の光明、あまねく十方世界の念仏の衆生を照らして、攝取して捨てたまはず」

と示され、このご文に続いて、

「われまたかの攝取のなかにあれども、煩惱、眼を障へて、見たてまつることあたはずといへども、大悲憐むことなくして、つねにわが身を照らしたまふ」と示されます。

阿弥陀さまの光は、あらゆる世界の人びとを照らし、摂め取って捨てられないけれども、私は煩惱に覆われて、仏さまを見たとてまつることができない。にもかかわらず、阿弥陀さまの大いなる慈悲のはたらきは、このような

私を見捨てることなく常に照らし続けてくださっている、という意です。

親鸞聖人は、源信和尚のご文をととても大切にされました。「正信偈」の一節は『往生要集』のご文に基づいていますし、『高僧和讃』にも詠まれています。そして『尊号真像銘文』では、源信和尚のご文を銘文として解説が施され、「常照我身」の「照」の解説として、「無礙の光明、信心の人をつねにてらしたまふなり。つねにてらすといふは、つねにまもりたまふとなり」とお示しくださっておられるのです。阿弥陀さまのなにもにもさまたげとまらない光は、常に照らし護ってくださっているのです。私は煩惱に覆われて、仏さまを見たとてまつることができない、にもかかわらずです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌掲載
『月々のことば』より抜粋 転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き仏事は休みます。よろしくお祈りいたします。

◎	6月				
	10日	(月)	終	日	日
	14日	(金)	終	日	日
	18日	(火)	終	日	日
	20日	(木)	終	日	日
	23日	(日)	終	日	日
	26日	(水)	終	日	日
◎	7月				
	3日	(水)	終	日	日
	5日	(金)	終	日	日
◎	8月				
	23日	(金)	終	日	日

2019年5月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2019年5月18日	満95歳
三ヶ所 青井 マシエ 様	
2019年5月20日	満99歳
古賀東 黒田 シノブ 様	

ホームページ開いています。

URL <https://konkouji.jp/>

6月7日現在アクセス数 89,387人

マ確「驚しメをいすにとにで紙きかのののし書いでし時また方「書違月
リ保来きたがおえの力教はいのてっ花花かを院花すたはす。かしいえ号当
して年ま。咲届ばでメえこま写良たがをし見裏だ▼。書。訂らヤてて表山
たきのし初いけ、教うてんす真かの時紹、てにとも今き坊正ごガいい紙で
こと五ためてに先え片いな。どって機介尾がた思う後な守し指「まま花発行
とぞ月。てい行日て手た花ようた、をし宮くくっ「はんかて摘でししの行
で「号そ見るき、くにだがけしてシ過て和ぜさてつそならおをしたた写して
た。思紙てのを黄理さ影れてば▼ガ撮たさとい山る言や申だお正當名
わの、で発色しいには「か毎を影だんしいし山る言や申だお正當名
ず写こと見のた▼行、我と月撮できかまたたにつわふしき二し蒲前寺
二真れてシア念そきすよが悩、影き、らたがはもれや上ま人く「を報
ンはでもまヤ珠うまぐ「家ん表でなぞ別。る、無りまなげしのはと間五

(任職 松井卓郎)

仏教名言ノート

塵も積もれば山となる
いろはかるたに、「塵も積もれば山となる」という有名な諺があります。わずかなものでも、積もり重なれば、高大なものになることのたとえです。この諺を聞くと、なぜか貯金箱を思い出します。
それは子ども頃から、わずかなお金でも粗末にしないで、一生懸命貯めていけば大金持ちになれると、教えられていたからでしょうか。
しかし実際は、大金持ちになるまで

に、封を切ってしまう、塵はなかなか積もりませんでした。
『広辞苑』には、「この諺は『大智度論』に基つて、よめらるる。
『大智度論』には、「譬えば、微塵を積みて山と成し、移動を得べきことかたきがごとし」とあり、これを出典としています。
仏典では、物質をもつとも微細に分割し、これ以上分割できない最小の実体を「極微」といいます。現代的には原子でしょうか。
その一極微を中心に、上下四方の六方に極微が集めた一団を「微塵」といって、目に見える最小の物質です。
「粉微塵」や「木っ端微塵」の微塵

そのよう小さなものでさえも、積もれば山となるというのです。
『仏教ことわざ辞典』(北辰堂発行)に、「塵は、こころは僅少なもののたえであるが、仏教ではこの世の汚れのこと、煩惱のことをもいう」とあり、「わずかな塵のような汚れが、大きな山となり、もはや動かすこともできないようなもの」と解説しています。
もしかしたら、それは、不用價権のことですかね。
悪い話です。積もりません。
(本願寺出版社発行
辻本敬順著
「続・仏教名言ノート」から)

任職ひとりごと